

ドイツ語には Passiv (受動) と呼ばれる表現がいくつかあるが、最も基本的なのは助動詞 werden と本動詞の過去分詞を組み合わせて作る werden 受動文である。助動詞の werden は本来は「(～に) なる」という意味の自動詞で、Er wird Lehrer. 「彼は教師になる。」のように使われる。過去分詞の作り方は弱変化動詞、強変化動詞、混合変化動詞などの種類により異なるが、いずれも原則として接頭辞 ge-が付く。また、主文の平叙文では助動詞が定形となり第2位に置かれ、それと結びつく本動詞の過去分詞は文末に置かれる。

以下、アンケートの表現に添って、例文を挙げ、簡単な説明をつける。<sup>1</sup>

(7) A は B に叩かれた。

a. Ich wurde oft von meinem Vater geschlagen.

私<sub>主</sub> 助・受動<sub>過去</sub> しばしば から私の・父<sub>与</sub> 殴る<sub>過分</sub><sup>2</sup>

僕はよく父に殴られた。

b. Mein Vater schlug mich oft.

私の・父<sub>主</sub> 殴る<sub>過去</sub> 私<sub>対</sub> しばしば

父は僕をよく殴った。

geschlagen は schlagen 「殴る」の過去分詞，schlug は過去形（3人称・単数）である。受動文の主語は能動文の対格目的語に対応する。ドイツ語の主語は主格で、定動詞は主語の人称および数と一致する。

動作主は受動文には現れないことが多いが、表示される場合は(7)a.の von meinem Vater のように、von 「～から」と与格からなる前置詞句が用いられる。「手段」や「原因」などは Die Kirche wurde durch Bomben zerstört. 「その教会は爆弾によって破壊され

<sup>1</sup> 例文の容認度は Vincenzo Spagnolo さん(東京外国語大学)に判断していただいた。

<sup>2</sup> 主=主格, 対=対格, 与=与格, 助・受動=受動の助動詞, 助・完了=完了の助動詞, 過去=過去形, 過分=過去分詞, …\_=「…」という意味の前置詞, 定冠=定冠詞, 不定冠=不定冠詞

た。」のように durch と対格で表示することができる。

(イ) A は B に足を踏まれた。(持ち主の受身, 身体部位)

a. Maria trat dem Mann auf den Fuß.

マリア<sub>主</sub> 踏む<sub>過去</sub> その・男<sub>与</sub> 上\_その・足<sub>対</sub>

マリアはその男の足を踏んだ。(＜その男に・足の上を・踏んだ)

b. Dem Mann wurde von Maria auf den Fuß getreten.

その・男<sub>与</sub> 助・受動<sub>過去</sub> から\_マリア 上\_その・足<sub>対</sub> 踏む<sub>過分</sub>

その男はマリアに足を踏まれた。(＜マリアに・足の上を・踏まれた)

c. Der Mann bekam von Maria auf den Fuß getreten.

その・男<sub>主</sub> 「もらう」<sub>過去</sub> から\_マリア 上\_その・足<sub>対</sub> 踏む<sub>過分</sub>

その男はマリアに足を踏まれた。(＜マリアに・足の上を・踏んで・「もらった」)

(イ)a.は「マリアはその男の足を踏んだ」に対応する能動文である。「踏む」という意味の *treten* は自動詞であり、「足」は前置詞句で、「その男」は与格で表される。つまり「男に・足を・踏む>男の足を踏む」というように、「足」の所有者を与格(「所有の与格」)で表示している。上述のように、受動文の主語になるのは能動文の対格目的語であるので、「足」や「その男」を主語とする受動文は作れない。自動詞でも受動文は作れるが、(イ)b.のように主語(主格)のない文になる(文頭の *Dem Mann* は主語ではない)。また、*bekommen* 「もらう」を助動詞化し、本動詞の過去分詞と組み合わせる(イ)c.のような表現も一種の受動文(*bekommen* 受動文)と見なされる。<sup>3</sup> これは能動文に与格で現れる名詞句を主語として表示する可能性としてしばしば言及されるが、容認度は表現される事態によって異なる。また個人差もあるようだ。インフォーマントによると、(イ)の事態を表す最も自然な表現は能動文(イ)a.であり、次が *werden* 受動文の(イ)b., (イ)c.はそれよりはるかに不自然だとのことである。

(ウ) A は B に財布を盗まれた(持ち主の受身, 持ち物)

a. Meinem Sohn ist vor dem Bürgerhaus sein Fahrrad gestohlen worden.

私の・息子<sub>主</sub> 助・完了 前\_定冠・公民館<sub>与</sub> 彼の・自転車<sub>主</sub> 盗む<sub>過分</sub> 助・受動<sub>過分</sub>

<sup>3</sup> *bekommen* 受動文については、大藪正彦「もう一つの受動態? — *bekommen* 受動 —」(三瓶裕文／成田 節 編「ドイツ語を考える。ことばについての小論集」三修社, 2008 年, 129-137 頁)を参照されたい。

息子は公民館の前で自転車を盗まれた。

b. Mein Sohn hat vor dem Bürgerhaus sein Fahrrad gestohlen bekommen.

私の・息子<sub>主</sub> 助・完了 前\_定冠・公民館<sub>与</sub> 彼の・自転車<sub>対</sub> 盗む<sub>過分</sub> 「もらう」<sub>過分</sub>

息子は公民館の前で自転車を盗まれた。

c. Jemand hat meinem Sohn vor dem Bürgerhaus sein Fahrrad gestohlen.

誰か<sub>主</sub> 助・完了 私の・息子<sub>与</sub> 前\_定冠・公民館<sub>与</sub> 彼の・自転車<sub>対</sub> 盗む<sub>過分</sub>

誰かが息子から公民館の前で自転車を盗んだ。

能動文(ウ)c.に見られるように、stehlen「盗む」は能動態では「被害者」を与格、「盗品」を対格で表すので、「盗品」を主語とする受動文(ウ)a.が作れる。「被害者」は与格のままであり、位置は(ウ)a.のように文頭でも良いし、文頭でなくてもよい。なお、文末の worden は受動の werden の過去分詞で、ist と結んで現在完了形を形成している。持ち主の受身も bekommen 受動文で表現できる。(ウ)b.は IDS (マンハイムドイツ語研究所) のコーパスから得た実例である。bekommen 受動文では被害者が主格主語になる。なお、(ウ)b.では gestohlen と bekommen で bekommen 受動「(～を)盗まれる」、hat と bekommen でその現在完了形「(～を)盗まれた」となっている。

もっとも bekommen 受動文が形成可能であっても、実際にどの程度用いられるかは、それぞれの表現内容や文脈によって異なるようである。(イ)c.に関して、auf den Fuß treten「足を踏む」の動詞を過去分詞にした auf den Fuß getreten を検索文字列として IDS の大規模コーパスを検索したところ 18 件ヒットした。ドイツ語の過去分詞は受動態にも完了形にも用いられるが、ヒットした 18 例はすべて完了形の事例であった。つまり、(イ)c.という表現は文法的に形成可能だが、実際にどの程度用いられるかは別の問題だということになる。

(エ) 昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。(自動詞からの間接受身)

a. Gestern Nacht hat mein Baby sehr geschrien. (能動文)

昨日・夜 助・完了 私の・赤ん坊<sub>主</sub> すごく 泣き叫ぶ<sub>過分</sub>

昨日の夜、私の赤ん坊はすごく泣いた。

Deshalb konnte ich gar nicht schlafen.

だから できる<sub>過去</sub> 私<sub>主</sub> 全然・否定 眠る<sub>不定形</sub>

だから私はぜんぜん眠れなかった。

このタイプはドイツ語では能動文で表し、日本語の「迷惑受身」に相当する受動表現は存在しない。もっとも、「迷惑」の意味は、一般的には与格を用いて表す可能性がなくはない。たとえば Duden のドイツ語大辞典には次のような能動文の例が載っている。

b. Ihr ist der Mann gestorben.

彼女<sub>与</sub> 助・完了 定冠・夫<sub>主</sub> 死ぬ<sub>過分</sub>

彼女は夫に死なれた。(＜彼女に・夫が・死んだ)

単なる Der Mann ist gestorben. 「夫が死んだ」とは異なり、ihr (「彼女」の与格) によって「夫が死んだ」ことに「彼女」が(この場合はネガティブな)影響を受けているということが表されている。このような例は「利害の与格」の例としてしばしば提示されるが、インフォーマントによっては不自然と感じられるようだ。また、この例文は上記の辞書では(jmdm.) durch den Tod genommen werden 「(誰かから)死によって奪われる」とパラフレーズされているので、日本語の「死なれた」とはやはり意味合いも異なるようである。なお、(エ)a.に mir 「私に」を付加した Gestern Nacht hat mir mein Baby sehr geschrien.もインフォーマントによると容認できないとのことである。

(オ) 新しいビルが (A によって) 建てられた。(モノ主語受身, 一次的)

a. Diese Konzerthalle ist von einer japanischen Baufirma gebaut worden.

この・音楽堂<sub>主</sub> 助・完了 から不定冠・日本の・建設会社<sub>与</sub> 建てる<sub>過分</sub>助・受動<sub>過分</sub>

この音楽堂は日本の建設会社によって建てられた。

b. Eine japanische Baufirma hat diese Konzerthalle gebaut.

不定冠・日本の・建設会社<sub>主</sub> 助・完了 この・音楽堂<sub>対</sub> 建てる<sub>過分</sub>

日本の建設会社がこの音楽堂を建てた。

c. Feierlich wurde die Fahne gehißt. (受動文)

おごそかに 助・受動<sub>過去</sub>定冠・旗<sub>主</sub>揚げる<sub>過分</sub> (おごそかに旗が掲揚される。)

そして旗がするするとポールを上っていく。(ノルウェイの森)

能動文の結果目的語を主語とする(オ)a.のような受動文もドイツ語では(ア)a.の基本パターンで問題なく作れる。また、(オ)c.は日本語の「(旗が)のぼる」に相当する自動詞がドイツ語に存在しないため、「(旗を)揚げる」という他動詞を受動文で用いている例である。

(カ) カナダではフランス語が話されている。(モノ主語受身, 恒常的, 動作主が問題にならない場合)

a. In Kanada wird auch Französisch gesprochen. (受動文)

でカナダ<sub>与</sub> 助・受動<sub>も</sub> フランス語<sub>主</sub> 話す<sub>過分</sub>

カナダではフランス語も話されている。

b. In Kanada spricht man auch Französisch. (能動文)

でカナダ<sub>与</sub> 話す<sub>現在</sub> 人<sub>主</sub> も フランス語<sub>対</sub>

カナダではフランス語も話している。

動作主が問題にならない場合は, もちろん(カ)a.のような受動文も可能だが, (カ)b.のように, 不特定の人を表す man を主語として能動文で表すこともできる。動作主が問題にならない受動文をもう一例挙げておく。

c. Unser Haupteingang wird um 22 Uhr geschlossen. (受動文)

私達の 表玄関<sub>主</sub> 助・受動<sub>現在</sub> に22・時 閉める<sub>過分</sub>

ここの表玄関は22時に閉められます。

(キ) 財布が (A に) 盗まれた。(モノ主語受身, モノ主語の背後に被影響者が想定される)

a. Mir ist das Portemmonnaie gestohlen worden.

私<sub>与</sub> 助・完了 定冠・財布<sub>主</sub> 盗む<sub>過分</sub> 助・受動<sub>過分</sub>

私は財布を盗まれた。(＜私から・私の財布が・盗まれた)

b. Mein Portemmonnaie ist gestohlen worden.

私の・財布<sub>主</sub> 助・完了<sub>現在</sub> 盗む<sub>過分</sub> 助・受動<sub>過分</sub>

私の財布が盗まれた。

c. Ein Krug ist zerbrochen worden.

不定冠・甕<sub>主</sub> 助・完了<sub>現在</sub> 壊す<sub>過分</sub> 助・受動<sub>過分</sub>

ある甕が壊された。

モノを主語とする受身は, 「盗まれる」など, 表される事柄によっては主語の背後に被影響者が想定できる場合もある。(キ)a.はモノ主語「私の財布」の背後に想定される盗難の被影響者(=被害者)「私」が与格で明示される例である。(キ)b.は与格表示はないが, mein Portemmonnaie 「私の財布」という表現から, 語用論的にやはり被影響者は

想定できるだろう。一方、(キ)c は、ハインリッヒ・フォン・クライストの「壊れ甕」の粗筋を紹介する短い文章の冒頭の文であり、「ある朝、甕が壊れているのが見つかった」というような客観的な意味を表す表現で、主語「ある甕」の背後に特定の非影響者は想定されていないと考えられる。

(ク) 壁に絵が掛けられている。(モノ主語受身、結果状態の叙述.)

a. An der Wand hängen Bilder. (能動文)

に\_定冠・壁<sub>与</sub> 掛っている<sub>現在</sub> 絵<sub>複</sub>・主  
壁に絵が掛っている。

b. An die Wand sind Bilder gehängt.

に\_定冠・壁<sub>対</sub> 助・受動<sub>現在</sub> 絵<sub>複</sub>・主 掛ける<sub>過分</sub>  
壁に絵が掛けられている。

ドイツ語には sein (英語の be に相当) と本動詞の過去分詞を組み合わせる sein 受動文というタイプもある。これは他動詞的行為の結果の状態を表し、状態受動文とも呼ばれる。典型的な例としては Die Tür ist geöffnet. 「ドアが開けられている (= 開いている)」などが挙げられる。ただし「壁に絵が掛けられている」の場合は、他動詞 hängen 「掛ける」と自動詞 hängen 「掛っている」が併存していることもあり、(ク)b. のような sein 受動文は、文法的には形成可能だが実際にはあまり用いられず、(ク)a. のような自動詞表現が用いられる。

(ケ) A は B に／から愛されている。

a. Lola wird von dem alten Professor geliebt.

ローラ<sub>主</sub> 助・受動<sub>現在</sub> から\_定冠・老・教授<sub>与</sub> 愛する<sub>過分</sub>  
ローラはその老教授から愛されている。

b. Der alte Professor liebt Lola.

定冠・老・教授<sub>主</sub> 愛する<sub>過去</sub> ローラ<sub>対</sub>  
その老教授はローラを愛している。

「～に／から」は前置詞 von で表示される。(オ)a. などの「～によって」も、動作主である場合は von で表される。

(コ) A は B に／から「…」と言われた。(伝達動詞の受身, 特に動作主のマーカ―に注目)

a. Wir haben gesagt bekommen, dass wir in der zweiten Liga spielen.

私達<sub>主</sub> 助・完了<sub>現在</sub> 言う<sub>過分</sub> bekomm<sub>過分</sub> that 私達<sub>主</sub> で<sub>定冠</sub>・第2・リーグ<sub>与</sub> 試合する<sub>不定</sub>  
私たちは2部リーグで試合をされると言われた。

b. Uns ist gesagt worden, dass wir in der zweiten Liga spielen.

私達<sub>与</sub> 助・完了<sub>現在</sub> 助・受動<sub>過分</sub> that 私達<sub>主</sub> で<sub>定冠</sub>・第2・リーグ<sub>与</sub> 試合する<sub>不定</sub>  
私たちは2部リーグで試合をされると言われた。

c. Hat dir das schon mal jemand gesagt? (能動文)

助・完了<sub>現在</sub> 君<sub>与</sub> それ<sub>対</sub> すでに いつか 誰か<sub>主</sub> 言う<sub>過分</sub>  
これまでにそう言われたことある, 他の人から? (ノルウェイの森)

「～から言われた」も bekommen 受動文として表すことができる。この場合, (コ)a.のように, 能動文の「～に…と言う」の「～に」を主語として表す。この(コ)a.はインターネットで検索した新聞記事の例であるが, この他に(コ)b.のような「私達」を与格にした werden 受動文も可能である。インフォーマントによると(コ)b.の方は「情報を得た」という客観的な表現だが, (コ)a.の方は「(ネガティブなことを)聞かざるを得なかった」というニュアンスを感じるとのことである。また, 日本語の小説中の「…と言われる」がドイツ語訳ではどのようになっているかを見てみると, そもそも受動文で表されている例は極めて少ない。(コ)c.は村上春樹「ノルウェイの森」の「これまでにそう言われたことある, 他の人から?」に対応するドイツ語訳の対応箇所であるが, ドイツ語では能動文で訳されている。「ノルウェイの森」のドイツ語訳では, この他の「言われる・言われた」もすべて能動文で表されている。